

令和4年度 徳島県生活交通協議会幹事会 議事概要

1 開会挨拶

公共交通を取り巻く環境は、大変厳しい状況にある。特に、複数市町村を跨ぐ広域移動を担う「幹線系統バス」は、国や県、沿線市町村の支援を受けながら、地域の足を守るという事業者の強い使命感で維持している状況である。

こうした中、令和元年12月に「次世代地域公共交通ビジョン」を策定し、さらに、昨年度には、「地域公共交通計画活性化再生法」に基づく法定組織として、「徳島県地域公共交通協議会」を立ち上げ、幹線系統バスに関して、国からの支援を確実に得るとともに、アフターコロナに向けた再構築を加速させていくため、「徳島県地域公共交通計画」の策定を進めてきたところである。

2 徳島県生活交通協議会設置規程の改定

この度、改定を行うのは、第5条「役員」の第2項の条文である。

当協議会の会長については、徳島県において、運輸戦略のトップである「県土整備部 次長」を充てることとしていたが、今年4月の組織編成で、交通施策全体のマネジメントを担うポストとして、「交通交流統括監」が新設されたため、これを受け、所要の改定を行う。

— 委員一同 徳島県生活交通協議会設置規程の改定を承認 —

3 地域間幹線系統確保維持計画（案）について

【計画概要】

当該計画は、令和5年度における、国の地域公共交通確保維持改善事業費補助金を受けるために必要なものであり、令和5年度から7年度までの3年間の計画を策定し、国土交通省に提出する。

地域間幹線系統である広域的・幹線的なバス路線は、高齢化が著しく進む本県において生活を支える重要な移動手段となっている。一方で、人口減少などを背景に公共交通機関の利用者は減少しており、事業者の経営環境は厳しい状況にある。このため、国の補助事業である地域公共交通確保維持事業を活用し、バス路線を確保・維持し、生活交通手段を存続させていくことを目的とする。

今回の路線再編は、長原線、二条鴨島線、神山線名東経由の3系統であり、これら以外の系統についても便数の変更がある。当該再編及び変更は、利用状況を踏まえるとともに、バスの運転手不足もあり、令和6年度から施行される「罰則付き時間外労働の上限規制」を見据えたものである。路線の運行については、今後とも継続的に維持・確保していくために、各路線の収支率を1%以上改善することを目標とする。令和5年度の国庫補助対象路線は26系統であり、国庫補助金申請額93,947千円となる

予定。また、当該対象路線全体の平均乗車密度の平均値を、令和7年度末までに新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前の令和元年度実績値である4.2にまで回復させることを目標とする。

バス車両については、計画的に更新を図ることで、輸送の安全性・快適性を確保するとともに、ノンステップバスの導入を促進し、利便性の向上を図る。令和7年度末までにノンステップバスの導入率を83%以上とすることを目標とする。国庫補助金申請額は、初年度と2年目以降の合計額になる。国庫補助金申請額は、徳島バスで、令和5、6、7年度すべて補助金対象車両33台で49,500千円となる予定。また、四国交通は、令和5、6、7年度すべて補助金対象車両1台で1,500千円となる予定。

現在、本県の地域間・幹線系統の運行について、徳島市を中心に徳島バス株式会社、三好市を中心に四国交通株式会社の2つの事業者が国庫補助対象路線を運行している。これらの事業者のサービスの品質、安全運行管理の体制、利用者利便対策など、これまでの実績を勘案して、引き続きそれぞれの運行系統の維持確保をお願いしたい。

【アンケート調査等】

(1) 徳島バス株式会社

- ①「バスが時間どおりに来ない」という意見があった。コロナ禍でマイカー利用が増えたと推察され、渋滞区間が増えたため、現行の運転ダイヤでは遅延が発生しがちになっている状況。ただし、通勤ラッシュ時を除くと、おおむねダイヤどおりに運行できているので、ダイヤ調整が難航している。バスロケーションシステムの活用によって改善を進めているが、コロナ禍での渋滞区間の増加に改善が追いついていない。今後は、より緻密な区間所要時分の設定などが必要だと考える。
- ②「もっと遅い時間帯でバスを運行してほしい」という意見があった。しかし、運転者不足による仕業の過密化、コンプライアンス遵守のための拘束時間の短縮に配慮する上で、朝か夜の時間帯で調整する必要がある。朝の便については、通勤・通学の利便性を損なわないために必要であるので、夜の時間帯の便で調整するしかないのが現状である。

(2) 四国交通株式会社

- ①一部の車両について、路線バスの運賃モニターを液晶モニターOBC-VISIONにしており、表示がかなり大きいので、「非常に見やすい」という意見があった。
- ②「もっと当該モニターを設置した車両数を増やしてほしい」という意見もあったので、OBC-VISION液晶運賃モニターの拡充を考えている。
また、三好地域においてはインバウンド需要の回復も予想され、多言語表示もできるOBC-VISIONの拡充を考えている。

－ 委員一同 計画(案)を承認 －

4 その他

地域間幹線系統確保維持負担金について

以上